



Newsletter

No.32 (2015.7.31 発行)

JAICOWS 2015 年度総会議事録

日時：2015年1月31日（月）13時～14時

場所：専修大学 8号館 5A会議室

出席：岩井宜子、国枝たか子、羽場久美子、原ひろ子、袖井孝子（5名、敬称略）、委任50名

1. 2014年度事業中間報告

- (1) 役員会の開催（9月8日、12月8日）
- (2) 総会の開催（2015年1月31日）
- (3) 学術会議主催シンポジウムへの参加（5月31日）
- (4) ニュースレターの発行（第30号、31号）
- (5) 第23期日本学術会議会員・連携会員における女性増に向けた取り組み
 - ・女性候補者の推薦要請文書の作成
 - ・JAICOWS会員等への周知と協力要請
- (6) 他機関との連携・協力
 - ・ジェンダー関連学協会コンソーシアムへの参加
 - ・人文社会科学系諸学会男女共同参画連絡会への入会
 - ・男女共同参画学協会連絡会での講演（8月28日、原ひろ子会長）
 - ・WAN（NPO法人Women's Action Network）サイトのミニコミ図書館（電子アーカイブ）へのJAICOWSニュースレター寄贈 <http://wan.or.jp/document/web/dantai/show/id/23>
 - ・内閣府男女共同参画局への情報提供
（「平成25年度チャレンジ・キャンペーン～女子高校生・学生の理工系分野への選択～」に協力団体としてアンケートに回答）
 - ・日本スポーツとジェンダー学会 第12回大会（7月13～14日）後援
- (7) その他
 - ・ホームページの更新およびニュースレターのバックナンバー掲載
 - ・JAICOWS紹介資料の作成

2. 2014年度会計中間報告（2015年1月31日現在）

最終報告をこのあとに掲載しています。

3. 2015年度事業計画

- (1) 役員会の開催
- (2) 総会の開催
- (3) 研究会の開催
- (4) ニュースレターの発行
- (5) JAICOWS紹介資料の整備・広報
- (6) その他

4. 会長の交代について
現在学術会議会員である羽場久美子会員を次期会長とし、若い層に活動を引き継ぐ形で継続するという決定を行った。
5. 次期役員会について
次年度は、田原事務局長も留学から戻ってくるので、6月9日に役員会を開き、役員の増員を図ることと、新入会員の勧誘について話し合うこととした。

2014年度 JAICOWS 会計決算報告

1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異 (②-①)	備考
繰越金	894,274	894,274	0	
会費	500,000	435,000	△65,000	87人分 (93.5%)
利子	100	144	44	
寄附	0	0	0	
収入合計	1,394,374	1,329,418	△64,956	

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異 (①-②)	備考
通信費	30,000	12,022	17,978	請求書発送費, はがき代等
Newsletter 印刷費	170,000	43,200	111,072	ニュースレターNo.30,31
Newsletter 発送費		15,728		
行事費	50,000	20,000	30,000	アルバイト謝金
会議費	25,000	11,698	13,302	弁当代, コピー代等
事務費	50,000	0	50,000	
学会業務委託費	432,000	432,000	0	
予備費	637,374	2,376	634,998	振込手数料等
支出合計	1,394,374	537,024	857,350	
次年度繰越金	0	792,394		

※会員数 89名 (2015年3月31日現在)

会計監査担当の馬場房子先生に監査をしていただきましたので、ここにご報告します。

JAICOWS 新会長 挨拶 羽場久美子

日本学術会議第19期研連委員・連携会員
20期・21期連携会員、22期・23期第1部会員
青山学院大学教授、世界国際関係学会 (ISA 副会長)



会員、新会員、学術会議の皆様へ

今回、多くの新会員の方々が入って下さり、本当にありがとうございました。
日本学術会議で、女性一人の時期から活躍されてきた多くの先達たち、島田淳子先生、一番瀬康子先生、

安川悦子先生、原ひろ子先生、またこれまで営々と役員を引き継いでこられた多くの先生方の素晴らしい献身的活動に、深い敬意を表します。そうした先輩たちの文字通り「女性科学研究者の環境改善」の努力を通して、私たちの現在があると思ひ、深い感謝と、その利他的な素晴らしいご尽力を引き継いでいくことの荷の重さに心を引き締めております。

他方で、現在、ジェンダー研究は、グローバル化の社会においても、また日本の政策目標としても、最も重要な課題の一つとなっており、あらゆるジェンダー研究の第一人者の方々が、それぞれ第一線で困難を切り開く活躍をされておられます。その為お忙しすぎて役員をお引き受けいただけず、私のような若輩者が、不十分ながら任を任せました事、恐縮に存じます。とともに、諸先生方の御教授とご協力を得ながら、学術会議における女性研究者が、会員で 23.3%、連携会員で 22.3%という時代に、量的に増大したのみならず、いかに質的にも高めていけるか、どのような環境整備が求められているのかを、皆様とともに、改めて考え直す機会としたいと思ひます。

<歴史>

「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会 JAICOWS」の発足については、JAICOWS 設立の趣旨や原前会長のメッセージにも書かれておりますように、日本学術会議第 15 期に 4 名の女性会員の下、「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言（声明）」が採択されたものの、16 期には学術会議会員が島田淳子先生お一人になり、そうした中で、日本学術会議の「外側で活動する NGO」として、一番ヶ瀬康子元会員を第 1 代会長（16 期：1994-1997）として発足した、とあります。

その後、第 2 代安川悦子会長（17 期：1997-2000）、島田淳子会長（18 期：2000-2003）、原ひろ子会長（19-22 期：2003-2015）を中心として積極的な環境改善の活動がなされ、今年 2015 年 1 月より羽場（23 期：2015-）に引き継がれました。

<課題>

この 10 年間で、女性研究者、あるいは女性を取り巻く社会環境は大きく変化しました。これまでの学術会議における女性比率 16 期 0.5% から 19 期 6.2%という状況の中、錚々たる方々の献身的な研究環境改善努力という状況とは大きく異なり、19 期から 20 期の転換点において、女性比率は飛躍的に改善し、20 期 42 名：20.0%、21 期 43 名：20.5%、22 期 49 名：23.3%と、大きな成長がありました。23 期は 23.3%（49 名）で横ばい、連携会員は 22.3%（420 名）と微増ですが、今期の改選人数の女性比率が高かったため、次回 2017 年の改選時に今回とほぼ同様の比率で選出すれば、30%を超える可能性もあり、2020 年までに 3 割、という目標はほぼ達成できる可能性が高まっています。

旧来の学会からの選出に代わって個人選出となり、1) 女性、2) 地方、3) 若手、という努力目標の下、これまでの大都市中心の 60-70 代の重鎮研究者による学術会議（そして陳情型の会議）から、女性、地方研究者、若手が大幅に拡充され、また小泉内閣の下で、総理府から内閣府に移行されて、政策立案型のより機動的な学術会議へと変化していきました。

他方で、世界における女性の地位向上やジェンダー研究の進展に比べて、内実としての日本の女性の地位（特にエンパワーメント）はなかなか上がらない。2013 年 10 月末のダボス会議を主催する世界経済フォーラム（WEF）によれば、「世界 136 カ国を対象に、男女平等の達成レベルを経済、政治、健康、教育の 4 分野から評価した「国際男女格差レポート 2013」の発表で、日本は 2012 年から順位を 4 つ下げ、136 カ国中 105 位」となりました（朝日新聞）。先進国のみならず中堅国途上国と比較しても低いとみなされる日本女性の地位の改善のために何をしていくべきかが問われている時期に来ていると言えます。

<21 世紀の女性研究者と女性をめぐる社会状況>

他方、学術会議で女性会員、連携会員が増えたことが女性の研究状況に繋がっているかと言えば、各大学や研究所などそれぞれの職場において重要な役割についている女性幹部は必ずしも多くありません。

また、日本の女性の地位がなかなか上がらないことに象徴されるように、国会議員や地方議員など政策決定に関わる部門にも女性は必ずしも多くありません。さらに、アカハラ、パワハラ、セクハラと言われるような様々なハラスメントが、女性に限らず、研究教育機関でも横行している現状があります。むしろ旧男性の権力機関に参入する中、女性幹部に対する差別や嫌がらせは拡大している状況もあります。

今後は、「男女共同参画」と言う状況の下で、社会のリーダーとなっていく女性たちの地位を保証していくとともに、移民の半分が女性でトラフィッキング（人身売買）など非合法的活動にも引き込まれていること、ワーキング・プアの多くが、若者のみならずシングルマザーに象徴される女性たち、子供の貧困の進行と呼ばれるような、社会の底辺で苦しんでいる女性や子供たちにも光を当て、注意を向けていく必要があると思われます。

課題はますます拡大していますが、23期は、会員23.3%、連携会員22.3%の女性たち、および学術会議全体の構成員とも連携しつつ、男女ともに住みよい社会、研究を発展させていける環境を整備すべく、微力ながら努力を重ねたいと思います。

<23期の努力目標・達成目標>

個人的には、24期には、会長を次の方に引き継ぎ、さらに活性化を図りたいと思っております。その時までの努力目標・達成目標を、次の3点とします。

- 1) JAICOWS 会員は、この間25名増えて、100名を越えました。皆様には、心より御礼申し上げます。最初の目標は達成されましたが、さらに130名、150名を目標とし、できるだけ、現会員・連携会員から積極的に会員になっていただきたいと存じます。その多くの方々が、現状の問題点を改革するために、積極的にJAICOWSに関わっていけるような、夢と目標のある活動を目指したいと思います。
- 2) 学術会議の会員、連携会員にアンケートをとり、職場、研究教育活動、生活における困難な事項を出していただく。それらの集計を取り、新しい時代における環境改善のあり方を目指します。
- 3) できるだけ、分野ごとに複数名の会員参加を目指します。年2回ほどの研究会を重ねることにより、現在の研究課題と今後の方向性を確認します。現在、分野別委員会ごとに数名～10数名の研究者がいる状況の下では、研究条件改善および研究分野の発展に際して、獲得目標も異なってきたと思われる。可能なら役員の中に、人文社会・自然科学の分野わけに加えて、分野別委員会ごとに一人ずつ程度の会員・連携会員が入ってくることにより、現状の改革目標が把握しやすくなるのではないかと思います。

これらの活動の中で、次期会長・役員になって下さる方を養成し、24期には滞りなく委譲することを目標とします。

会長に就任させていただいての、現状認識と努力目標ですが、以上のような努力・達成目標を掲げて、ぜひ、皆様とともに、皆様の研究教育生活条件改善のために、活動していきたいと存じます。

皆様の課題と目標を持ち寄って、ぜひ、日本学術会議、各職場、そして日本の女性環境を改善していくことにお力をお貸しいただきたく、御教授・ご協力・御教導の程、どうぞよろしく願いいたします。

JAICOWS 2015 年度第 1 回役員会 議事録

新会員が 25 名！ 会員数が 100 名を超えました！

日時：2015 年 6 月 9 日(火) 18:00～18:30
場所：専修大学法科大学院 8 号館 5A 会議室
参加者：羽場、原、岩井、直井、田原（5 名）

報告事項：

1. 入会案内の発送

第 23 期日本学術会議会員・連携会員名簿を基に、JAICOWS 非会員の女性計 400 名を対象に、入会申込書、ニュースレター第 31 号（2014 年 12 月 26 日発行）、研究会案内（2015 年 6 月 9 日実施予定）の 3 点を発送した（2015 年 6 月 2 日）。

2. 新規入会者について

上記入会案内発送後の新規入会者 10 名（2015 年 6 月 8 日現在）について紹介がなされた。

（追記：その後さらに入会申込みがあり、新会員は合計 25 名に、会員数は 100 名を超えた。新会員名後述）

3. 2015 年度第 1 回研究会 18:30～20:30

「JAICOWS の歩みと今後の課題」 原ひろ子氏（JAICOWS 前会長、城西国際大学客員教授）

「中国史とジェンダー」 小浜正子氏（日本大学文理学部教授）

4. 事務局の復帰について

臨時に事務局を担当していただいた岩井宜子会員から、在外研究から帰国した田原淳子事務局長のもとに事務局が復帰した（事務局連絡先はこのニュースレターの最後に記載）。

審議事項：

1. 歴代会長の顧問就任について

原ひろ子前会長に顧問に就任していただくことになった。

2. アンケートの作成と実施について

JAICOWS 会員および第 23 期日本学術会議 女性の会員・連携会員を対象に、アンケート調査を実施することになった。アンケートの依頼は、夏頃を目処に発行されるニュースレターと同時に発送する。

3. ホームページの更新

非会員による更新作業については、感謝の気持ちとして謝礼をする方向で具体的な検討をすることになった。

JAICOWS 研究会報告 1

性犯罪規定のありかた — ジェンダーの視点から

日時：2015 年 1 月 31 日（土）14 時～17 時半

場所：専修大学 8 号館 4 階 842 号室

以下の講師・演題により、公開シンポジウムとして行われ、JAICOWS 会員以外にも多数の出席者があった。最初のお二人の分を中心に岩井宜子 JAICOWS 会員にまとめていただき、羽場会員にはご自身でまとめていただいた。

岩井宜子（日本学術会議元会員 専修大学名誉教授）「性犯罪規定の見直しに向けて」

後藤弘子（日本学術会議会員 千葉大学法科大学院教授）「日本の性犯罪の現状と問題点」

羽場久美子（日本学術会議会員 青山学院大学教授）「グローバリゼーションとトラフィッキング(人身売買)」

原ひろ子 JAICOWS 会長(当時)の司会のもとに開始された。まず始めに「性犯罪規定の見直しに向けて」の題で、岩井宜子会員から、企画趣旨を含めて、日本の性犯罪規定（強姦罪・強制わいせつ罪）が明治 40 年刑法の規定からほぼ変わらず、親告罪とされていること、わずかに、改正は、昭和 33 年に共同強姦等を非親告罪化し、平成 16 年に強姦罪の法定刑が懲役 3 年以上に引き上げられたにとどまるという問題性が指摘された。そして、各国がフェミニズム運動等を経て、性犯罪被害者の実質的保護に向けて性犯罪規定の改正が進められていることをアメリカ、イギリス、フランス、スウェーデンの概要を示し説明の後、日本での法改正への動きとして、平成 21 年に国連女性差別撤廃委員会から「現刑法の性暴力の親告罪規定を撤廃すること。強姦を秩序道徳に反する犯罪としていまだに捉えていることを脱し、女性の権利と身体の安

全への犯罪であることを明記すること。強姦罪の法定刑の引き上げ、近親姦と夫婦間レイプを性暴力犯罪として規定すること」を勧告された。それに対応して、平成 22 年第 3 次男女共同参画基本計画において、女性に対する暴力防止の具体的施策として、「強姦罪の見直し（非親告罪化、性交同意年齢の引き上げ、構成要件の見直し等）など性犯罪に関する罰則の在り方を検討する」ことが掲げられ、平成 24 年 7 月には、男女共同参画会議女性に対する暴力に関する専門調査会報告書『「女性に対する暴力」を根絶するための課題と対策～性犯罪への対策の推進～』が出された。それに伴い、法務省は平成 26 年 10 月 31 日に「性犯罪の罰則に関する検討会」を発足させている状況が説明された。

次いで、「日本の性犯罪の現状と問題点」として、後藤弘子会員から、法務省の検討会において、非親告罪化、法定刑の下限の引き上げ、暴行・脅迫要件の見直し、性交同意年齢の引き上げ、強姦罪の客体の見直し、強姦罪の行為態様の見直し、未成年を理由とした公訴時効の一時停止、立場利用の性犯罪規定の創設などという項目について幅広く議論されていることが紹介され、参考人として呼ばれた際には、強姦罪の規定を「16 歳以上の人の意に反して、身体への挿入行為を行ったものは、強姦の罪とし、5 年以上の有期懲役に処する。16 歳未満の者への挿入行為も同様とする。」、強制わいせつ罪の規定を性暴行罪とし「16 歳以上の人の意に反して、身体への性的接触を行ったものは、性暴行の罪とし、10 年以下の有期懲役に処する。16 歳未満の者への身体への性的接触行為も同様とする。」とする旨の改正意見を述べたことが示された。

（第 3 報告は以下に別掲）

フロアには、角田由紀子弁護士（法務省検討会委員）が参加されており、検討会の成り行きについての貴重な意見をきくことができた。各国の性犯罪規定についての比較法資料も出され、詳細な議論が行われているが、刑事局がわの態度はかなり保守的で、抜本的な見直しはなされないのではないかという見通しが示された。

グローバリゼーションとトラフィッキング（人身売買） — ヨーロッパのジェンダー政策

羽場 久美子

21 世紀に入り、トラフィッキング（人身売買）という言葉が、世界の組織犯罪の取り締まりの中で、国連や、米国内務省などからしばしば指摘されるようになった。トラフィッキングとは「人を搾取する目的で、暴力や他の形態の強制により、脅迫、勧誘、詐欺欺瞞、権力の乱用、弱い立場の悪用を行い・・・人を勧誘、輸送、移動、収容すること」、（国連略称「人身売買禁止議定書」第 3 条）とある。

売春との違いは、組織犯罪の罠に掛けられた貧国の子供たちが多く、パスポートを取り上げられ一室に監禁され、情報も食事もほとんど与えられずお金ももらえず「人権の先進国」での威嚇と暴力と詐欺の中で「無償の性労働」に従事させられることである。国連によれば、銃・麻薬に並ぶ世界 3 大犯罪の一つとされる。21 世紀にこれが起こっている背景には、人の移動の自由化、グローバルなサービス業の世界的拡大があり、その中で、最も弱い国の弱い立場の人々が人権先進国でこれに巻き込まれているという皮肉な現状がある。

特に 21 世紀の特徴は、これまでアジア・アフリカが中心であった人身売買の罠に、ウクライナやモルドヴァ等旧ソ連の破綻国家の女性子供たちまでがかかっていることである。それは合法非合法の網の目を潜り抜ける形で、日本や韓国にも大量に入ってきている。

この 21 世紀の性暴力犯罪に対して、EU・国連は「何も知らないあなたが加害者」としてキャンペーンに乗り出し、ビロードの 3 連携（政治家－NGO－専門家）との共同により効果を上げつつある。

この間、日本の取り組みは、遅れと克服の努力が指摘されている。これまで日本は「人身売買根絶のための最低基準を満たさない国」として監視対象国に位置付けられてきた。2004－05 年、およそ 10 年前がピークであったが、組織犯罪が無くなったわけではなく、むしろ見えにくくなったとされる。

日本でも、ビロードの 3 連携を強め、無関心な社会に情報を広げ、売春の摘発と当事者の強制送還では解決できない犯罪として、背後の犯罪組織の摘発や、児童女性の保護・カウンセリング、職業訓練など通常の職業として収入を得られる体制をサポートする、遅れている法制化と保護の制度化を進めるなど、きめ細かい対策が求められている。

フロアからは、日本における深刻なトラフィッキングの現状について弁護士の間でも必ずしも情報共有がなされていないこと、その意味でも情報収集や、弁護士・大学教員・政策決定者の連携が、今後重要な課題となるであろうこと、一般にも広報していくことの重要性、などが活発に議論された。

JAICOWS 研究会報告 2

日時：2015年6月9日

場所：専修大学法科大学院 8号館 5A 会議室

(1) 「JAICOWS の歩みと今後の課題」

講師 原ひろ子 (城西国際大学・JAICOWS 前会長)

JAICOWS の設立 (1994 年) から今日に至るまでの歩みを概観するために、二点の資料が提供された。一つは、その背景となる戦後の「国連の動向」「日本の動向 (政府・国会)」「日本学術会議・その他における女性研究者問題に関する動向」と共に「JAICOWS の動向」を示す年表であり、当時のエピソードも交えて説明がなされた。もう一つは、①日本学術会議会員数 (1981～2014 年)、②日本学術会議の連携会員数 (2008～2014 年)、③学会の長・役員 (協力学術研究団体のうち男女別役員数がとれる 1,550 団体について集計)、についての総数、男女別人数、男女比のデータである。現在の女性の割合は、日本学術会議会員が 23.3%、同連携会員が 22.3%であるのに対し、学会の長は 7.7%、学会の役員が 9.4%とさらに低い割合にとどまっている。

上記の年表の中から、「JAICOWS の動向」の箇所を以下に抜粋する。(まとめ 事務局長 田原淳子)

年	JAICOWS の動向
1994	・12月 JAICOWS (Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists: 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会) の設立。初代会長 一番ヶ瀬康子 (社会福祉学) (日本女子大学教授) (日本学術会議第 1 部元会員 (第 13-15 期))。
1996	・2月15日 「非常勤研究者が科学研究費申請に応募できるようにする件」および「性差別に関する不服申立に関する対応—専門的な機関の設置について」の要望を中塚明・日本学術会議第 2 常置委員会委員長に対し、JAICOWS 会長一番ヶ瀬康子、他有志一同により提出。
	・『女性研究者の可能性をさぐる』 (1996年12月14日 JAICOWS 編 ドメス出版) ・平成 8～9 年度文部科学省研究費 基盤研究 (A) (1) (課題番号: 08301023 研究代表者: 原ひろ子) 「科学研究者をとりまく研究環境の実態に関する男女比較調査」を JAICOWS 会員 23 名と共に申請。
1997	・6月 「非常勤講師の実態調査」直井道子 (東京学芸大学教授) が担当 (JAICOWS の予算から)。
	・12月23日 シンポジウム「女性研究者と非常勤問題」 (於: 日本女子大学) を開催。
1998	・4月 安川悦子 (経済学・思想史) (名古屋市立大学教授) (日本学術会議第 3 部元会員 (第 13-15 期)) が第 2 代会長として就任。
1999	・平成 10 年度文部省科学研究費補助金「成果公開促進費」 (申請番号: 102071 研究代表者: 原ひろ子) により、平成 8～9 年度文部科学省研究費 基盤研究 (A) (1) (課題番号: 08301023 研究代表者: 原ひろ子) 「科学研究者をとりまく研究環境の実態に関する男女比較調査」の報告書として、『女性研究者のキャリア形成—研究環境調査のジェンダー分析から—』を出版 (1999年2月15日 原ひろ子編 勁草書房 共同執筆者: 浅倉むつ子、加藤春恵子、直井道子、馬場房子、鶴沢由美子、川原ゆかり)。
	・3月5日 「大学・研究機関等における研究者の性別構成の是正に関する件」および「大学: 研究機関等における共同研究プロジェクト、および、特定の大学・研究機関等を超えて実施される共同プロジェクトの形成に際して男女共同参画を目指す件」の要望を猪瀬博・学術審議会会長に対し、JAICOWS 副会長・日本学術会議第 16 期-17 期会員 島田淳子、および、JAICOWS 庶務・日本学術会議第 17 期会員 原ひろ子の連名で提出。
	・12月18日 JAICOWS シンポジウム『女性科学者の環境改善の推進特別委員会 (女性特委) の活動経緯について』

2000	<p>・島田淳子(食物学)(昭和女子大学教授・お茶の水女子大学名誉教授)(日本学術会議第6部元会員(16-17期))が第3代会長として就任。</p>
	<p>・4月15日 第18期学術会議においても、「女性特委」における検討の継続と女性特委に学術会議以外のオブザーバー参加の承諾についての要望を吉川弘之・日本学術会議会長に対し、JAICOWS 会長 安川悦子および、JAICOWS 第8回総会参加者の連名で提出。</p>
	<p>・4月15日「女性特委が実施した調査集計終了時期の見通しについて」集計結果を回答のあった各学会に送付とマスコミへの公表についての要望を吉川弘之・日本学術会議会長および、尾本恵市・女性特委委員長に対し JAICOWS 会長 安川悦子および、JAICOWS 第8回総会参加者一同の連名で提出。</p>
	<p>・10月14日ジェンダー問題が21世紀における全地球的課題であるとの認識に立ち、世界・日本における学術研究を深め、その成果を広く一般に周知すること、日本における学術そのものに内在するジェンダーバイアス、女性研究者差別の実態を把握し、解決することを吉川弘之・日本学術会議会長に対し、JAICOWS 会長島田淳子および、JAICOWS 第9回(臨時)総会参加者一同の連名で提出。また、「学術研究団体登録手続きの様式に男女別を名記するという点に関して、早めに推進管理局に働きかけ、各学会への周知徹底をはかること、第18期選挙にあたって、会員推薦に関する学協会等への会長要請文書等に対する対応調査の結果を速やかに公表すること、第18期研究連絡委員会の女性委員比率を早めに公表していただく事もあわせて要望いたします。」を付記。</p>
	<p>・12月11日「科学技術基本計画案第2章Ⅲ.(1)⑥(b)女性研究者の環境改善に関する意見」として、科学技術基本計画における女性研究者に関する位置づけ、女性研究者の環境問題が出産等に限定されている点に言及し、以下の3点に関する要望を町村信孝・科学技術庁長官に対し、JAICOWS 会長島田淳子が提出。</p>
	<p>(1) 女性研究者の採用、昇進等について (2) 人事選考の仕組みの改善について (3) 公私の別なく、研究者が自ら希望する名称(旧姓、通称名など)を使用できるようにすること。</p>
2003	<p>・5月17日 シンポジウム「ジェンダー問題と日本の学術」(共催:ジェンダー特委)(於:日本学術会議大会議室)を開催。</p>
	<p>・12月13日 JAICOWS 総会 講演「アジアと女性研究者」(演者:原ひろ子)(於:専修大学神田公社8B会議室)</p>
2004	<p>・2月23日 日本学術会議第1部・第2部研連合同シンポジウム「科学技術とジェンダー」を日本学術会議と共催。</p>
	<p>・3月16日 JAICOWS シンポジウム「少子化と女性」(主催:日本学術会議21世紀の社会とジェンダー研究連絡委員会・JAICOWS)(共催:ジェンダー学研連・木材学研連、天文研連、社会学研連)(於:日本学術会議大会議室)を開催。</p>
	<p>・シンポジウム「法学・政治学とジェンダー —ジェンダー法学・政治学の可能性—」(主催:日本学術会議第2部21世紀の社会とジェンダー研連)(共催:日本学術会議第1部ジェンダー学研連、JAICOWS、東北大学21世紀COEプログラム「男女共同参画の法と政策」—ジェンダー法・政策研究センター)(於:日本学術会議大会議室)</p>
2006	<p>・「特別研究員 RPD 事業に於いて非常勤講師や任期付きポストで、出産・育児休業制度が適用されないため、その職をやめざるを得ないなど、その後の研究現場への復帰が困難な者が研究活動を再開するための支援を行うもの。」という制度について、直井道子 JAICOWS 役員は個の施策に該当する女性研究者にメールインタビューを行い、この施策に内包される問題点を指摘している(JAICOWS ニュースレターNo.20)</p>
2008	<p>・男女共同参画会議において、福田総理大臣から「2020年に指導的地位に占める女性比率を30%にすること」をさらに加速との指示があり、「女性の参画 加速プログラム」が始動したことを受け、各省庁および、内閣府男女共同参画会議員である担当大臣20名、および、有識者議員9名、内閣府文部科学省・厚生労働省関係局長6名、総合科学技術会議有識者議員9名、政府関連112研究機関および、88国立大学法人に対し、「学術研究における男女共同参画の推進について」の具体的施策についての要望を JAICOWS 会長原ひろ子が提出。</p>

(2)「歴史教育、中国史とジェンダー」

講師 小浜正子（日本大学・日本学術会議連携会員）

第20期日本学術会議史学委員会に設置された歴史学とジェンダーに関する分科会（略称：ジェンダー史分科会）は、ほぼ毎年シンポジウムを開催し、分科会の活動をベースに図書*を発行するなど、活発な活動を展開している。ジェンダー史研究の成果を歴史教育の現場に活かし、歴史教育改革の中でジェンダー主流化を図るべく取り組んでいる（2015年8月1日午後、日本学術会議講堂にてシンポジウム「歴史教育の明日を探る」を開催し、教材として「慰安婦」問題を取り上げる予定）。

日本の多くの中国研究・アジア研究には、ジェンダーが欠如しており、そのことが研究のアンバランスのみでなく、社会的影響も引き起こしている。日本の社会は突出してジェンダー格差が大きい、その歴史的背景についての認識不足の一因はそこにある。欧米との比較だけでなく、アジアとの比較と相互影響の中で歴史的背景を考察し、近代化の道筋を丁寧にみていく必要がある。それによって現在の社会のジェンダー問題への適切な取り組みが可能になるだろう。また、「慰安婦」問題をジェンダーの問題としてどう扱うかも問われている。アジアのジェンダー史研究に関して、2012年度からNIFU現代中国プロジェクト東洋文庫拠点現代中国研究資料室ジェンダー資料研究班として、中国ジェンダー史共同研究に取り組んでいる。その研究成果として、今年度は下記の図書を刊行予定である**。

<*既刊>

長野ひろ子・姫岡とし子編『歴史教育とジェンダー — 教科書からサブカルチャーまで』青弓社, 2011年.
三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『歴史を読み替える—ジェンダーから見た世界史』大月書店, 2014年5月.

久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵『歴史を読み替える—ジェンダーから見た日本史』大月書店, 2014年12月.

<**刊行予定>

スーザン・マン著『性からよむ中国史—男女隔離・纏足・同性愛』（小浜正子・L.グローブ監訳, 秋山洋子・板橋暁子・大橋史恵訳）平凡社, 2015年6月—既刊.

『アジア遊学』「特集・ジェンダーの中国史」2015年10月号.

小浜正子・秋山洋子編『現代中国におけるジェンダー・ポリティクスの新展開』勉誠出版, 2015年12月刊行予定.

小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航編『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会, 2016年3月刊行予定.

新入会員の紹介

お名前	所属	専門分野
松井 知子	統計数理研究所 モデリング研究系	数理統計、機械学習、音声情報処理
所 千晴	早稲田大学 理工学術院	資源循環工学、化学工学、粉体工学
須田 木綿子	東洋大学 社会学部	福祉社会学
半場 祐子	京都工芸繊維大学 応用生物学系	植物生理生態学
斯波 真理子	国立循環器病研究センター研究所 病態代謝部・再生医療部	脂質代謝、創薬、DDS
山口 しのぶ	東京工業大学 学術国際情報センター	ICT と開発、国際開発工学、経済開発と教育発展、e-ラーニングの国際比較
松尾 亜紀子	慶應義塾大学 理工学部機械工学科	機械工学
武田 万里子	津田塾大学 学芸学部国際関係学科	憲法学
伊藤 美千穂	京都大学大学院 薬学研究科	薬学、薬品資源学
長田 典子	関西学院大学 理工学部人間システム工学科	感性情報学、メディア工学

建石 真公子	法政大学 法学部	憲法、国際人権法
永瀬 伸子	お茶の水女子大学 基幹研究院人間科学系	労働経済学 社会保障論
湯澤 美都子	日本大学 医学部 眼科	眼科
中島 聡美	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 成人精神保健研究部	精神医学、被害者学
菅原 ますみ	お茶の水女子大学 基幹研究院人間科学系	心理学
原田 尚美	海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター	生物地球化学、古海洋学
藤原 葉子	お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系	栄養化学
廣瀬 真理子	東海大学 教養学部人間環境学科	社会保障法政策(オランダを中心としたヨーロッパの福祉国家研究)
今井 桂子	中央大学 理工学部情報工学科	数理情報学
小林 みどり	静岡県立大学 経営情報学部	数学
高橋 裕子	津田塾大学 学芸学部英文学科	アメリカ社会史 (家族・教育・ジェンダー史)
田中 弘美	立命館大学 情報理工学部知能情報学科	知能情報学、コンピュータビジョン
正木 治恵	千葉大学大学院 看護学研究科	看護学
糸 昭苑	東京工業大学大学院 生命理工学研究科	基礎医学、生物学
國井 秀子	芝浦工業大学大学院 工学マネジメント研究科	工学マネジメント

新規入会者 以上 25 名 7 月 22 日現在 会員数 113 名

JAICOWS アンケートへのご協力をお願い

現在、第 23 期日本学術会議には、女性の会員 49 名・連携会員 420 名という、かつてない多くの女性が集い、女性会員が一人から数名の時期に比べて、かなり量的変化のみならず質的变化も起こってきていると思われます。そこで、今日感じておられるジェンダーに関わる研究環境・生活環境に関する悩みや問題点、改善が必要だと考えておられることは何かを、お伺いさせていただきたく、アンケートを同封致しますので、どうぞご協力の程、宜しくお願い致します。

できるだけ多くの方々のお声を寄せていただくことで、女性研究者の環境改善に向けた今後の取り組みのあり方が明確になってくると思われます。なお、お寄せいただきますご回答は、結果を JAICOWS のホームページ等で公開し、今後の活動方針の参考にさせていただきたく存じます。

(この号は、桜美林大学大学院の直井が係りでした。)

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒206-8515 東京都多摩市永山 7-3-1 国士舘大学体育学部 田原淳子研究室
Tel・Fax：042-339-7294（研究室直通）
E-mail：tahara@kokushikan.ac.jp <http://jaicows.fc2web.com/>
学会事務センター：
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル
株式会社 ワールドプランニング
Tel:03-5206-7431 Fax:03-5206-7757
E-mail：world@med.email.ne.jp

郵便振替口座番号 00100-8-542793

ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0542793
口座名義 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会